

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田 原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

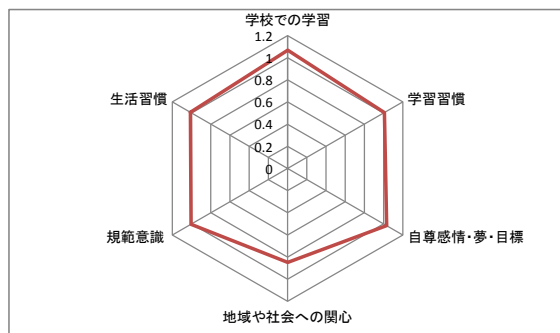
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域も全国平均を大きく上回っている。 ・話すこと・聞くことに関する力が身につけており、話の論理的展開に注意して聞いたり、話合いの話題や方向をとらえて的確に話すことができる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文脈に即して漢字を正しく読むこと、古典の文章の内容を捉えること、接続詞の働きを理解することなどの問題。	
	努力が必要な問題	・語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うこと、目的に応じて分の成分の順序や構成を考えて適切な文を書く問題。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・場面の展開や人物の描写に注意し、理解する力がしっかりとついている。 ・文章の構成や展開についての自分の考えを持つことや文章とグラフとの関係から内容を捉える問題などに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・質問の意図を捉えること、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することなどの問題。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことや、全体と部分との関係に注意して話すことなどの問題。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・数と式、関数、資料の活用の領域で、全国平均を大きく上回っている。 ・計算問題や方程式を解くこと、図形を書くことなど数学的な技能や、数量・図形などについての知識が身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・数直線の問題、文字式の計算、比例式や連立方程式、回転体、見取り図、投影図などの問題。	
	努力が必要な問題	・等式の性質、等式の変形、照明の必要性和意味、一次関数の意味、確率の意味などを問う問題。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・数と式、図形、関数、資料の活用の領域で、全国平均を大きく上回っている。 ・与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理したり、数学的に表現したりすることなど、数学的な見方や考え方が身につけている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・場面問題における考察の対象を明確に捉える問題やグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する問題。	
	努力が必要な問題	・数学的に表現を用いて説明する問題や問題解決の方法を数学的に説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・第1分野、第2分野ともに全国平均を大きく上回っている。 ・特に、自然事象への関心、意欲が高く、知識がしっかりと身につけており、学習内容がきちんと理解されている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・実験結果の表を読み取る問題、地震に関する知識の問題、原子の記号の問題、軟体動物の特徴に関する問題	
	努力が必要な問題	・植物の蒸散と湿度に関する問題、風向の観測方法や記録に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多く、規範意識も高い水準であり、落ち着いた学校生活を送ることができている。
・学校での学習に対して、意欲的に取り組んでおり、学習習慣も身につけている生徒が多い。宿題や課題にもきちんと取り組み、家庭学習が充実している。
・地域社会への関心は低くはないが、地域行事などへの参加する機会が少なく、今後地域とのつながりを深めていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 各授業においてめあて・まとめカードを使用し、振り返りの学習についても充実させていく。
- 全学年で主体的、対話的で深い学びを目標とした授業を実践する。ICT機器を有効に使い、分かりやすい授業づくりに努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 各教科において、計画的に宿題を課し、家庭学習習慣を確立させる。
- 家庭学習ノート(T1ノート)、生活ノートを活用し、計画性のある家庭学習に取り組ませる。
- 学校便り等で本校の学力について保護者に周知し、課題を共有することで協力体制を整える。